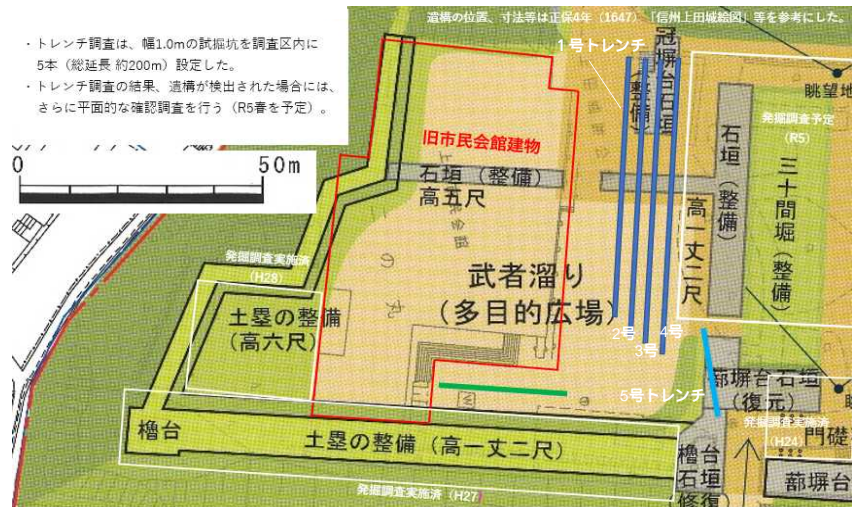


史跡上田城跡発掘調査 現地説明会資料

令和4年12月18日(日) 上田市教育委員会

- 調査期間 令和4年(2022)11月10日~12月22日(木)
- 見つかったもの
 - 江戸時代から大正時代の地面と思われる地層を確認しました。
 - 上田市公会堂の伴う石積みの一部が見つかりました。
 - 江戸時代の瓦が2点見つっていますが、後世の地層に混入したものと考えられます。
- 分かったこと
 - 発掘調査を行った範囲では、明治時代以降に複数回にわたって大規模な埋め立てが行われたようです。
 - 公会堂や上田監獄の建設により、江戸時代の地面が削られてしまっている可能性が出てきました。
- 今後の予定
 - 令和5年3月頃に、今回の発掘調査範囲の一部を平面的に調査をする予定です。
 - 発掘調査の結果をもとに、武者溜りの整備計画を作成します。
 - 令和6年度に旧市民会館建物の解体に着手する予定です。

【参考】 明治6年(1873) 陸軍により廃城決定。大蔵省により払下げが始まる
 大正12年(1923) 上田市公会堂開館
 昭和35年(1960) 上田市公会堂取り壊し
 昭和37年(1962) 上田市民会館開館



発掘調査範囲とトレンチ配置図・武者溜りの遺構推定図



この写真から、公会堂の建物周辺が、今回の発掘調査範囲より1.5m位高くなっていることが分かります。5号トレンチから当時の地面と考えられる固く締まった地層が、地下1.2~1.3m付近から見つかりました。平成24年に行った博物館南側の発掘調査では、同じ深さから江戸時代の根固め(集石)が見つかったので、江戸時代から大正時代までは、地面の高さはあまり変わっていないと思われます。



1号トレンチから石積みの基礎の一部と、その根固めとも考えられる、丁寧に地面に石を敷いた跡が見つかりました。写真の矢印の場所に写っている石積みと考えられます。この石積みの痕跡は昭和時代の始めのものと考えられますが、城跡が公園として利用された当時の姿を伝える貴重な資料として、地下にこのまま保存していく予定です。